

センシング先端技術動向調査報告会

—平成24年度「センシング技術専門委員会」活動報告—

■主催：センシング技術専門委員会

■担当部署：知的技術部

■参加者数：約65名

概要

JEITAでは、IT・エレクトロニクス産業の今後の発展にとって重要なセンシング技術について最新動向を把握するため、センシング技術専門委員会（委員長：本多敏氏 慶應義塾大学）を設置し、当該分野における先端技術の動向調査を実施しております。今回の報告会では、平成24年度にセンシング技術専門委員会で開催した各分科会の調査について広く紹介するとともに、特別講演として構造物の健全性を把握する「光ファイバ神経網技術」に関する研究内容をご紹介頂きました。

講演では、最初に本谷秀堅氏（名古屋工業大学）から、ソーシャルセンシング技術の要素技術に関する調査報告として、ゲームの仕組みを利用したゲームフィクションの考え方や、計測装置を使わずに画像による3次元計測が可能となる技術動向等の紹介がありました。

澤田和明氏（豊橋技術科学大学）からは、QOLのためのセンサ・デバイス技術として医療分野における早期診断に関するセンシング技術、活性酸素の評価手法から高付加価値の食を提供するセンサ技術、そして少量多品種のものづくり分野で競争力復活を秘めたセンサ製造プロセスに関する紹介がありました。

篠田裕之氏（東京大学）からは、触覚の生理学、視覚と触覚の関係性や錯覚、感性制御等の観点から触覚関連技術の動向をまとめた24年度の活動内容について報告があり、触覚ディスプレイなどの具体的な応用デバイスについて各種ご紹介をいただきました。

最後に、特別講演として、保立和夫氏（東京大学）に、光ファイバ中で生じるブリルアン散乱を分布測定し、ひずみや位置を計測する技術Optical Correlation Domain Techniquesについて、ビル、橋、航空機の翼等の構造物や材料に張り巡らせて健全性を把握する「光ファイバ神経網技術」に関するご研究内容についてご講演いただきました。

報告会は、センシング技術専門委員会幹事の肥塚哲男氏（株式会社富士通研究所）の司会・進行により、舟木英之監事（株式会社東芝）の開会挨拶の後、以下の内容で進められ、最後にセンシング技術専門委員会委員長の本多敏氏（慶應義塾大学）の挨拶で閉会しました。



プログラム

【司会】 センシング技術専門委員会 幹事 肥塚哲男 氏（株富士通研究所）

○開催の挨拶

センシング技術専門委員会 監事 舟木英之 氏（株東芝）

○「ソーシャル・センシング技術に関する調査」

ソーシャル・センシング技術分科会 委員長 本谷秀堅 氏（名古屋工業大学 情報工学科 教授）

○「センサ・デバイス技術に関する調査」

センサ・デバイス技術分科会 委員長 澤田和明 氏（豊橋技術科学大学 電気・電子情報工学系 教授）

○「感性センシング技術に関する調査」

感性センシング応用ロードマップ技術分科会 委員長 篠田裕之 氏
（東京大学 大学院 新領域創成科学研究科 教授）

○招待講演「痛みの分かる材料・構造の為の光ファイバ神経網技術」

保立和夫 氏（東京大学 大学院 工学系研究科電気系工学専攻 教授）

○閉会の挨拶

センシング技術専門委員会 委員長 本多 敏 氏（慶應義塾大学理工学部 教授）